

ミニシンポ「リスクマネジメントによる洪水抑制 —日本とドイツにおけるリスクに対応する 洪水抑制に関する戦略—」

ライナー・ピチャース

アンネッテ・グッケルベルガー

2012年3月28日 於：ドイツ・シュパイヤー

平成24年3月28日に、ドイツ・シュパイヤー行政学大学において、ライナー・ピチャース教授（ドイツ・シュパイヤー行政学大学・教授）と堀 智晴（京都大学防災研究所水資源環境研究センター・教授）共催のミニシンポ「リスクマネジメントによる洪水抑制—日本とドイツにおけるリスクに対応する洪水抑制に関する戦略—」が開催された。報告は、ライナー・ピチャース教授、アンネッテ・グッケルベルガー教授（ザールラント大学）及び堀智晴教授であった。

ここでは、当日通訳を担当した者の責任で翻訳を行い紹介する。また、堀教授の報告「日本における洪水防禦システムの変遷と洪水リスクマネジメント」は、堀 智晴他著「氾濫原における安全度評価と減災対策を組み込んだ総合的治水対策システムの最適設計—基礎概念と方法論」土木学会論文集 BVol.64 No.1、1頁以下をご覧ください。

松塚晋輔（京都女子大学・教授）にはミニシンポジウムへの参加を急遽お願いし、ピチャース教授報告についての翻訳を無理にお願いしたところ、御快諾頂き、今回の報告紹介についてもご尽力賜り、この場を借りてお礼申しあげる次第である。

磯村篤範